

# 大学院教育学研究科

所属・職位	大学院教育学研究科（教職大学院）・准教授	
氏名	森竹 啓介 (Moritake Keisuke)	
取得学位	文学士，広島大学，1989年3月	
SDGs目標		

研究分野	教育実践
研究キーワード	学級運営や授業づくりへの心理学等の理論や技法を援用したアプローチ，連携支援
研究内容	<p>教育学部心理学科を卒業後，学校現場や旧適応指導教室（現教育支援センター），教育行政での勤務等を経験した実務家教員です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●学校現場での主な取組 学校現場では教科教育の他，中学生が直面する様々なこころのゆれや発達課題に，心理学等の知見を意識したどのようなサポートができるかを考えながら，学級集団と個の双方の成長を軸にした実践を探ってきました。また，スクールカウンセラーや養護教諭，こども福祉課等，内外資源と連携した支援等について探ってきました。</li><li>●旧適応指導教室（現教育支援センター）での主な取組 旧適応指導教室では，児童生徒の困りや背景の理解，スモールステップでの体験活動や学習支援等による社会参加の促進といった児童生徒への直接的な支援やスクールカウンセラーや養護教諭，担任等やこども福祉課等，学校内外の複数資源による連携支援について，実践的に探ってきました。</li><li>●教育行政での主な取組 教育行政では，学校の校内研修等に参加しながら，児童生徒が見通しをもって学習活動に参加し，児童生徒自身が何をどのように学んだかを意識することができる授業づくり等を現場の先生方と一緒に探ってきました。また，各学校の課題解決に向けて，様々な学校の取組を共有したり，各学校の取組の中で何が起きているのかを現場の先生方と一緒に振り返ったりしながら，各学校が実践の評価と改善を進めることへの支援等に取組んできました。</li></ul>
研究業績・アピールポイント	2022年4月から大分大学教職大学院に実務家教員として従事しています。それまでは，県内公立中学校，旧適応指導教室（現教育支援センター），市や県の教育委員会事務局，県教育センター等で勤務してきました。学校現場では大学等で学んだ知見をどのように生かして実践に取り組むことができるか等を模索し，教育行政では様々な実践を参観したり，先生方と協議したりする中，先生方とともに各学校の実践を進めようとしてきました。こうした経験をもとに，教職大学院での授業では実際の小中学校での授業実践や組織的な取組の様子をお話したり，資料を作成・共有したりしています。